

3/10  
早稲

# 「原発ゼロ」8年目の氣勢

## 福井で県内団体集会



↑ 原発のない福井の実現を訴えて行進する集会参加者＝9日、福井市内で

東日本大震災と福島第一原発事故から八年になるのを前に、脱原発を求める県内団体は九日、福井市のフェニックス・プラザで原発ゼロを求める集会「3・11メモリアルアクション」を開催した。（今井智文）



福島原発事故の翌年から開催し、今年で八回目。県内の五団体でつくる実行委員会が主催し、五百人が参加した。原発問題住民運動全国連絡センターの筆頭代表委員を務める伊東達也さん（福島県いわき市）が、事故により約十万人が故郷に戻れず、特に子どもが激減したままの状況を説明。「福島は言葉に尽くせない犠牲を払った。次の犠牲を払わないうちに、原発を再稼働させない運動を頑張ろ

う」と語った。  
元自民党幹事長で、原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟の副会長を務める中川秀直元衆院議員が記念講演。かつて科学技術庁長官

として原発推進の先頭に立ったことを「大きな誤りだった。心から猛省している」と振り返った。「今、原発をゼロにし、自然エネ

ルギーに転換するのが合理的だ」と強調し、野党が昨年の通常国会に提出した「原発ゼロ基本法案」への支持を呼びかけた。

「原発のない新しい社会をつくる」とするアピールを採択。参加者は市街地をデモ行進して「原発なくせ」と訴えた。

元自民幹事長

中川秀直氏に聞く



「原発とは共存できない」と話す中川秀直氏＝9日、福井市のフェニックス・プラザで

元自民党幹事長の中川秀直氏は講演後、本紙のインタビューに応じた。「原発ゼロ」の実現には国民世論が重要との考えを示した。

「もんじゅナトリウム漏れ事故（一九九五年）直後に科学技術庁長官に就任し、敦賀で「大臣と原子力を語る会」を開いた。

「原発を平和利用するには、もう一度ちゃんとやらなければ」と考えた。語る会には反対派の方たちもいっぱいいらした。その後、『原子力政策円卓会議』もつくって議論したけど、合意形成

## 「世論高まれば国会動く」

ができたとは言えなかった。推進側も慎重にやらなきゃ、という反省はあったかもしれないが、結局はああいふ事故（福島第一原発事故）が起こった。人災だ。慎重にやる、といつてもすぐ緩んだんだ。無為無策、無責任だよ。そういうものがある限り、原発とは共存できない。人の命を考えたなら」

「『原発ゼロ基本法』の議論は進んでいない。」「議論が避けられているというより原発そのものの議論が避けられている。与党にとっても野党にとっても最優先のものとなっていない。国民世論も、どちらかというと原発に『ノー』の方が多いが、原発ゼロが最優先とまではなっていない。世論が原発ゼロが最優先だとすれば、国会もそうなるだろう」

「安倍首相も原発についてあまり語らない。」

「それ（原発ゼロ）を出せば選挙に勝つ、と何回も言っているんだけどな。直接も言った。まあ無理なんだろう。国会答弁なんか聞いていても。（政権基盤が安定している時がチャンスなのに）もったいないよね」